

大韓民国慶尚南道

ソングン コンサミョン 晋陽郡琴山面の祝言のあいさつ

金 光柱

○はじめに

1. 対象地の地理的環境：慶尚南道の西部に位置し、晋州市と南江（川の名）を隔てて南に隣接している低い山のふもとにあっちこっち散らばっている農村集落である。
2. 対象地の社会的経済的環境：伝統的な農村で、生業は農業である。最近では若いものの大部分が近隣都市（晋州、馬山、釜山など）へ出て、会社員として生活している。
3. 交通：晋州市からバスが30分ごとに往来しているので、比較的便利である。
4. 人口：人口は約6000人。150戸ほどの村があっちこちに十ぐらいあるが、都市善好傾向で、農村の人口は次第に減少している状況である。
5. 調査者、調査方法：調査者金は上の対象地の出身である。調査方法は隣の友人（同地からの留学生）家族と話しあって、日常生活中、常に耳にする言葉から質問事項に答える方法を取った。

○韓国のお見合いについて

韓国のお見合い（ソンボンダと言う）は、両家をよく知っている仲人が両家と別々に話し合ってみて互いに関心がある場合、場所と時間を決めて両家を会わせる。喫茶店かホテルのコーヒーショップなどで結婚当事者と両家父母、仲人の同席で、お見合いが行われる。仲人がまず両家を紹介してから、両家はいろいろ質問を交わし合う。それから、翌日か数日後仲人に自分側の意思を伝える。仲人は両家側からの返事を聞いて、お見合いの結果を両家に伝えることで任務完遂である。

もし、両家が互いに気に入った場合、お見合いから数日以内に結婚することもあるが、普通は結婚当事者が6ヶ月、または1年ぐらい交際した後、結婚する。結婚が成事したとき仲人に対する礼は、昔は韓服一着ぐらいであったが、この頃はお金（金額は決めていない）で払っている。

○結婚式のやり方

韓国で行われている結婚式は、旧式と新式というのがあるが、旧式結婚式は、色々面倒なことなので、あまりやろうとする人がいない。

1. 旧式結婚式：宮中衣装に似た服を着た新郎が、家長（父親）と友人を連れて新婦の家へ新婦を迎えに行き、そこで結婚式を挙げる。

結婚式は新婦家の庭の真ん中にテーブルを設け（その上に蠟燭を二つ明かし、木で作った鴛鴦、若しくはその象徴として鴉の雄と雌、竹、色紙テープなどで飾る）、それを挟んで、新郎と新婦が向かい合って立ち、村の元老の司会で結婚式が行われる。賀客は新婦側の親戚ばかりでなく、村中の人全部集まってお祝いする。当日家長と友人は帰るが、新郎は2泊3日間新婦の家に泊まってから新婦を連れて自分の家に帰る。それから、新郎の家でまた、新郎側の親戚や村中の人を集めて新婦の家で同じ礼式を行う。賀客にご馳走する料理は、日本の雑煮によく似たトクグをはじめ、色々な料理が出て、農村特有の盛大なパーティーになる。

トクグというのは、普通お正月と結婚式のときだけ食べるものなので、婚期になった人やその両親に村の人が道で会うと、「いつトクグ食べさせてくれるのか」と冗談を言ったりする。

2. 新式結婚式：結婚式だけを専門にする結婚礼式場（5階程度の大きい建物で、毎階ごとに5、6組が同時に結婚できるホールを持っている）というのがある、そこで両家の親戚、友人が全部集まって行われる。新郎は洋服、新婦はウェディングドレスを着て権威ある人を主礼として、結婚誓約、礼物交換、主礼辞、成婚宣言などの手続きで、約30分ぐらいで終わる。

賀客には新郎側、新婦側が別々に礼式場近くの食堂を借りて、家で準備した料理と食堂に頼んで食堂で作ったビビンバ（ご飯に色々な野菜と細かく切った肉を乗せて、それを混ぜて食べる）とかカルビタン（骨付きカルビを入れて煮た汁にご飯がついている）などをご馳走する。賀客の数は、約150人から250人ぐらいが普通である。

○祝言のあいさつ

I. 結納授受のあいさつ

上の対象地では、結婚式当日式場で新郎新婦が直接自分の手で、黙って交換する。

II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

○ 가족하나 불어 줄것을니다. (カゾクハナ ブロ ゴケソムニダ)

「カゾク; 家族、ハナ; 一、一人、ブロ; 増えて、ゴケソムニダ; いいでしょう、嬉しいでしょう。」

家族が一人増えるようになって嬉しいでしょう。

● 예, 감사합니다. 놀러오소. (イエ、ガムサハムニダ。ノル ロオソ)

「イエ; はい、ガムサハムニダ; 感謝します、ノルロ; 遊びに、オソ; 来てください」

はい、ありがとうございます。お祝いに来てください。

○ 물론 가야지예. (ムル 론 가야지예)

「ムルロン; 勿論、ガヤジエ; 行くべきでしょう、私が行かなくちゃの意味」

もちろん、行きます。

または

○ 이번에 녀느리 본다고 바쁘지예? (イブネ ミョノリ ボンダゴ)

「イブネ; 今度、ミョノリ; お嫁さん、ボンダゴ; 迎え入れることで、バプジエ; 忙しいでしょう。」 バプジエ)

今度お嫁さんをもらうことで忙しいでしょう。

● 뭐, 누가가 하는 일 아닙니까? 안바쁘면 놀러오소. (ムオ、ヌグナガ

ハノンイル アニム ニカ。アンバプミョン ノル ロオソ)

「ムオ; まあ、ヌグナガ; 誰もが、ハノンイル; やるべきこと、アニムニカ; じゃありませんか、アンバプミョン; 忙しくなければ」

まあ、だれもがやってることじゃありませんか。忙しくなければ、お祝いに来てください。

○ 꼭 가야지예. (コク 가야지예) 「コク; きっと、必ず、」

はい、きっと行きます。

III. 嫁を出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

○ 이번에 딸 치운다고 딸이 서운하지예? (イブネ タル チウンダゴ マニ

ソウンハジエ) 「タル; 娘、お嬢さん、チウンダゴ; 嫁げることで、お嫁に挙げることで、マニ; たいへん」

お嬢さんを嫁にやることは名残惜しい(物寂しい)ことでしょう。

● 뭐, 때가 되면 보내야지예. 주인 있을 때 귀야지. (ムオ、テガ데미ョン

ボネヤジエ。ジュインイソルテ ジュオヤジ) 「テガ데미ョン; 時期になると、時機が来る

と、ボネヤジエ; 行かせるべきでしょう、ジュインイソルテ; 主が現れたとき、ジュオヤジ; やらなくちゃ」

まあ、時期になると行かせるべきでしょう。主がある時遣らなくちゃ。

IV. 結婚式当日のあいさつ

1. 新郎の父親とお客

○ 녀느리 잘 봤네예. (ミョノリ ザル バンネイエ)

「ザル バンネイエ; 本来の意味は、よく見ましたねだが、ここでは、気立てのいい立派な嫁をもらいましたの意である。」

気立てのいい立派なお嫁さんをお願いしましたね。

● 바쁘신데 미리 와주셔서 감사합니다. (バブシンデ イリ ワジュシヨ
ソ ガム サハム ニダ。) 「バブシンデ;忙しいところにも、イリ;こんなに、ワジュシヨ;来て(ださって)」
忙しいところへわざわざお祝いに来てくださってありがとうございます。

2. 新婦の父親とお客

○ 사우 잘 봤네요. 사우분라고 고생 많았지요? (사우 자르 판
네요. 사우본다코 고센마나ჯ지요)

「사우;お婿さん、사우본다코;お婿さんを迎えるため、고센마나ჯ지요;ご苦労多かったです」

立派なお婿さんをもって嬉しいでしょう。お婿さんを迎える準備のため色々苦勞だったでしょう。

● 바쁘신데 미리 와주셔서 감사합니다. (バブシンデ イ리 와ジュシヨ
ソ ガム サハム 니다。)

忙しいところへわざわざお祝いに来てくださってありがとうございます。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

● 이번에 본 며느리입니다. 부족한 선이 알아도 잘 봐 주쇼. (이브네 폰
미요노림 니다. 브즈크 한지요미 마나드 자르 보아지쥬)

「브네;迎え入れた、브즈크한지요미;足りない点が、마나드;多くても、자르보아지쥬;大まかに見てください」

今度もらった嫁です。足りないところがあってもよろしくお願いします。

○ 아이구, 며느리 잘 참하네. (아이구, 미요노리챠름 챠마네)

「아이구;感謝詞、마, 챠름;本当に、챠마네;氣立てのいい人のように見えますね。」

本当に氣立てのいいお嫁さんですね。

VI. 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

○ 며느리 보니 좋지요? 이제 손주 기다려 지겠네. (미요노리보니
조치요. 이제 손주 기다려 지겟네)

「보니;見たら、조치요;いいでしょう、嬉しいでしょう、이제;これから、손주;孫 기다려지겟네;待たれそうね」

お嫁さんがあるといいでしょう。これから、孫が待たれるでしょうね。

● 예, 그럴 때도 오겠지요. (이예, 그롬 테드 오게치요)

「그롬테드;そんな時も、そうなる時も、오게치요;来るでしょう。」

まあ、いつかはそうなる時も来るでしょう。

VII. 結婚式後の仲人へのお祝いのあいさつ

● 이번엔 정말 애 많이 쓰셨읍니다. (이브넨 지ョン마름 에마니
스쇼스름 니다) 「지ョン마름;本当に、에마니스쇼스름니다;色々助けてくださいましたの意」

この際は、本当にありがとうございました。

○ 안니워, 다 인연이야카 맺어진거야. 이제 행복하게 살아야지. (아니무오, 다
인요닌이니까 메지요진고야. 이제 헝복하게 살아야지)

「アニムオ; いや、ダ; 昔、インヨンニカ; ご縁があるから、マジョツンゴヤ; 結ばれたんだよ、ヘンボクハダ; 幸せに」

いや、こんなことも皆、ご縁があるからだよ。これから、幸せに暮らすよう頑張らなさい。

Ⅳ. 嫁の初めての里帰りのあいさつ

○ 안아버님, 어머님, 그럭 다녀 오겠습니다. (アボニム、オモニム、ゴロム
ダニョ オゲスム ニダ。) 「アボニム; お父さん、オモニム; お母さん、ゴロム; では」
では、お父さん、お母さん行ってまいります。

● 그럭, 부모님께 안부 잘 전하고 조심해서 갔다 오나라. (グレ プモニム ケ
アンブ サル ジョンハゴ ジョシメソ ガッタオノラ。)

「グレ; はいの意、フモニムケ; 父母に、両親に、アンブ; 安否、ジョンハゴ; 伝えて、ジョシメソ; 気をつけて、」

両親によろしく、それから気をつけて行ってきなさい。

(嫁の初めての里帰りを新行と言ひ、結婚式の三日後実家へ帰って普通2泊3日間泊まる婚前不正などがばれて、喧嘩別れをしない限り、新婦が実家に無断で帰ることはない。

新行の時持って帰るものは、餅類、酒のほか新郎の家で準備してくれた色々の料理を大きい膳いっぱい分持っていく。)

○おわりに

以上で、調査者の故郷である対象地慶尚南道晋陽郡琴山面一帯で言われている結婚式に際しての祝言のあいさつを調査者が幼い時から二十年以上ずっと耳にしてきたことに基づいて書いてみた。ところが、同じ意味のあいさつでも人によって少しずつ表現が違ふので、書いてから読み返すとあまり自信がない。

韓国のあいさつの言葉は日本に比べると単純すぎる程数が少ない。それで、場面場面に当て嵌まるあいさつとしては分化していないようだ。その代わり、敬語の方はかなり発達している。同じ意味の語でも自分より目上か目下かによって、また自分とどの位の年齢差があるかによって使い分けべき語が普通5、6くらいである。それから、あいさつを欠かない人が偉い人だと言つて、同じ人を一日に十回会つても会う度にあいさつをするように、子供の時から教える。それで、誰もかもがあいさつの言葉として時間と場面にかかわらず、同じあいさつの言葉を言っているし、聞いていながらもそれを不自然とは思っていない。それも文化であろうが、やはり場面に合うあいさつの言葉の分化が必要だと考えられる。

(広島大学教員研修留学生)